

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 29 年 11 月 22 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470105184		
法人名	社会福祉法人 広島光明学園		
事業所名	グループホーム光明早稲田 1 F		
所在地	広島市東区牛田早稲田2丁目4番15号 (電話) 082-222-7002		
自己評価作成日	平成29年10月23日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=3470105184-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成29年11月17日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

入居すると生活範囲が狭くなり、歩行が悪くなっていくため日中に施設まわりを歩いていただいています。天候と状況しだいですが1日1回は行うようにしています。車椅子の方はてすりなどを持って立ったり座ったりといった運動をしています。 それぞれができることを探しておこなっていただいています。できなければ一緒におこなっています。安心して暮らしていただけるよう細かな声かけに留意しています。 地域の行事やイベントにはできるだけ多く参加し、楽しんでいただけるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

高台に位置するところに施設があり屋上へ上ると景色の良い風景が見え、施設の中では明るくアットホームな雰囲気で皆過ごされている。 天候をみながら毎日散歩していることもあり、近所の方との交流を密に図れ地域内に根ざしたグループホームになっている。 毎月花見やお祭りと季節毎に行事が多くあり楽しみのある生活が送れる事でメリハリのある生活が送れるようになっている。特に食事への思いがあり、日々の食事はもちろん、お正月にはおせち料理など、お膳を手作りにて一緒に作り楽しまれている。
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	3つの理念を掲げ各フロアに掲示している。また始業前に全員で復唱して確認しあっている。 ・家庭的な雰囲気を大切にします。 ・地域の人との交流を心掛けます。 ・明るい笑顔を絶やさないよう心掛けます。 利用者様にはいつも笑顔で優しい言葉での対応を心掛けている。 地域の方に出会ったらこちらから声をかけ挨拶を行うよう努めている。	理念は三ヶ所によく見える位置に掲示し毎朝朝礼にて唱和している。 毎月の職員会議にて理念をもとにしたグループホームの月間目標を立て実践に近づけている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域のイベント、行事などを利用者様と一緒に参加している。 地域の方々と一緒にイベントの準備などを手伝ってつながりを継続し事業所を理解していただけるように努めている。 町内会にも加入し地域の掃除などにも参加させていただいている。	町内会に幹事として参加し各行事などに行き来できるように関わっている。 入居者の中で地元出身の方が多くおられるため近くの認知症カフェに参加したり牛田地区のイベント等には職員がボランティアとして参加し存在感のある施設となるよう取り組まれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症カフェや認知症ケアサポートなどの実施で地域の人々に認知症のことを理解していただけるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	開催 1回／2カ月 町内会長、民生委員、町内事業所の方、利用者様、ご家族の方に参加していただき、意見を取り入れながらサービス向上に活かしている。	運営推進会議では町内会や民生委員、包括支援センター等の参加者が多く来られている。 そこでは意見交換が活発に行われ、会議の中で盆踊りで席を優先的にとっていただいたり不審者の情報を共有して警察に連携した事もある。	運営推進会議で活発な意見が出ているが議事録が乏しい為、今後はしっかりと議事録に残しその報告書を家族に送付することで家族との信頼関係がより密になる様に期待したい。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	広島市介護保険課、東区健康長寿課、広島市総合社会福祉センターなどに相談や連絡をとり、協力関係を築くように取り組んでいる。	市町担当者にできるだけ訪問するようにして相談するようにしている。 運営推進会議に包括職員も参加していただけるよう促している。 また、生活保護担当者の方とは今後の対応について随時しっかりと連携が図れている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関するマニュアルを作成し施設内研修や実践を通して学習を継続し、身体拘束を行わない介護を行っている。 日勤帯は施錠をしない介護を行っている。	法人全体で、身体拘束虐待防止の研修を行い、合わせて委員会も発足しており随時皆で協力し合いながら職員の意識を高めることで現在は身体拘束等は行われていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待はあってはいけない事なので職員全員で日々心がけ、虐待の防止に関するマニュアルを作成し施設内研修や実践を通して学習を継続し、虐待を見過ごさない、また防止の徹底に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	包括支援センターの職員を通じて権利擁護における理解を深めている。また必要に応じて施設内研修や勉強会に参加して理解、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は利用者のご家族に同席していただき一緒に読み合わせを行なっている。重要事項などポイントとなる箇所や疑問点があるときなどは納得されるまで説明し理解を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	フロアに用紙を設置し苦情や意見を書いていただいている。内容について職員と検討し運営に反映できる仕組みを作っている。	来訪された時に意見や要望を把握できるようにしている。事例の中には重度の介護度の入居者に、歩行してほしいとの要望があった際に訓練を実施し歩行状態を改善した事例もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議や施設内でのミーティングを行っている。 年2回個人面談を行っている。場合によっては適時個人面談を行い意見聴取ができる場を設けている。	職員会議の前にマイホープと言う紙を職員が1枚ずつ提出することで意見や提案を吸い上げるシステムがある。 また、施設での評価制度がありその中で職員の要望を聞き3ヶ月前に管理者が確認し各職員のモチベーションの向上に役立っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員が働きやすいような環境を作るため希望する休みを考慮し出来るだけ意向にそった休日が確保できるよう努めている。 連休の取得も心がけている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員が希望する研修には出来るだけ参加できる環境作りを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人内の他事業所との交流を深め情報交換や勉強会などでサービスの向上に努めている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービスの利用を開始する段階で利用者様本人やご家族の相談をうけ納得し安心していただけるよう努めている。 できるだけ利用者様と会話を行い信頼関係を作るよう心がけている。		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族の方にも安心していただけるよう、今の生活の様子などを面談できさせていただき、できるだけ考慮するよう努めている。 利用者様の状態にあわせた交流の場を設けて職員がサポートしながら少しずつ施設に馴染んでいただけるように支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	家族の方、利用者様が今何を求めているのか、必要なサービス利用は何かを考えて対応するよう努めている。 安心して生活が送れるような対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	会話の中から今まで生活してきた知識を教えていただいたり昔話を話していただいたりしながらお互いが話しあえるような環境づくりの努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時、家族からの要望や相談があれば聞き共に利用者様を支えていく関係を築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人、知人の面会のご家族の同意のもとで利用者様がこれまで大切にしてきた関係が途切れないよう積極的に支援している。 訪ねてこられたときは、ゆっくりとお話ができ、楽しく過ごしていただくよう努めている。帰られる際にはお礼とまた来てくださるよう丁寧な対応に努めている。	地域の行事にできるだけ参加する事でなじみの方と会える機会を支援している。その際には施設に来訪していただけるよう声掛けをしている。 入居者の中には以前コーラスの先生をされていた方もおられイベント等には積極的に関わり慰問にも来ていただいている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	フロアで過ごされる方が多く、いろいろなタイミングでレクリエーションや作品作りなどで利用者同士が交流を深め支えあえるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所された利用者のご家族と時々連絡を取り関係性を大切にフォローや相談、助言などを継続している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様の会話や行動から一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。家族の方に相談を行い希望がかなえられるように努めている。	アセスメント時に趣味を聞いたりレクリエーションの時に意見の出やすい雰囲気作りを行い意向の把握に努めている。また職員間で入居者の意向の共有のために連絡ノートがあり皆で記入することで連携している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用者様やご家族から話をきいたりこれまでの記録を振りかえり経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	職員が利用者の1日の様子を観察し記録に残して現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	利用者のご家族の希望を聞き職員の意見を取り入れながら現状に即した介護計画書を作成している。	毎日詳細を記入できるモニタリングシートがあり各職員がニーズを把握しながら記入している。それによりニーズに沿ったケアプランが作成できている	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録に日々の様子を記入している。ポイントとなる項目については詳しく記録し必要な事項については送りノートに記載して職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	送りなどでその時々ニーズを把握し職員で話合っている。状態に応じ要望にこたえられるような支援ができるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	民生委員、かけはしなどの地域資源と連携をはかり安全で安心な暮らしができるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご家族の了解のもとかかりつけ医と相談を行いながら、信頼関係を築き適切な医療を受けられるよう支援している。 月2回の往診が可能になり利用されている方は受診時の負担を軽減できている。	入居前のかかりつけ医との関係が継続できるように家族と話し合いながら行っている。協力医には月に2回往診していただけるため外出が難しい入居者の方にも適切な医療を受けられるように支援している。職員の中に看護師もおり日々の状態観察もできる体制が築かれている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	介護職員は日常で気づいたことなど看護職員に伝え相談を行い、利用者が安心して適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換や相談している。入院先を訪問し状態の把握に努めている。病院からも情報を送ってくださるので現在の状態を把握することができている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所前に終末期のあり方について利用者様、家族の方の意向、かかりつけ医の意見をきき方針を共有している。	現在看取りの事例は無い。 今後はドクターと連携できる関係性が構築されているため常駐している看護師と連携しながら研修を行い、看取りを行っていきたいと考えている。合わせてアセスメントの段階から看取りに対しての説明を行い対応していく。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	施設内研修などで応急手当、初期対応に実践力をつけるよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年3回訓練を実施している。マニュアルを作成し全員が避難行動できる方法を把握できるようにしている。地域にも依頼し協力体制ができるように努めている。 日勤帯、夜間帯の想定訓練を行っている。	年3回の訓練を実施しているうちの1回は消防署立ち合いの訓練を実施している。また管理者が地域の合同訓練に参加している。 この地域の災害では土砂災害が想定できるが他の場所へ避難は難しく上の階へ避難する等のシステムができています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	充分に気をつけ利用者様の自尊心や人格を尊重する声かけに努めている。各居室にトイレが設置されており、プライバシーを保てるよう心がけている。	普段の声かけから耳元でささやくように配慮しトイレ介助の際は本人様が見えないところで気をつけている。入浴では個浴対応であるが、タオルを利用しプライバシーの配慮に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者が希望どおりの自己決定ができるよう普段からふれあいを大切にしている。その中から日常的会話や様子を参考に本人の希望に基づいた意思決定ができるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのその日の状態にあわせた支援に心がけている。利用者側の気持ちを優先する支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	洋服の選択など利用者の意思を尊重している。選択できない場合でもその人にあった物を選んでいく。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	誕生日などに希望を取り入れたメニューを提供している。食事の盛付やおやつ作りを一緒に行ったりしている。利用者様から味付けの意見をきいて希望にあった味を心がけている。	食材を業者から仕入れ事業所で手作りにて調理するようにしている。お正月にはおせちを用意しているが常食の困難な方にはソフト食を提案し楽しく食べていただけるように工夫している。入居者の方にメニューによっては野菜の皮むきを行ったり片付けを行ってもらったりできることは手伝ってもらっている。	

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	状態に応じた食事形態で提供し摂取しやすい支援をしている。 1日1500cc～1700ccの水分摂取を確保できるよう提供している。一度に摂取できない場合は少しずつこまめな提供を支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、一人ひとりの状態に応じた口腔ケアを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	時間帯でトイレ誘導を行い一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、習慣を活かしていく自立に向けた支援を行っている。 排泄パターンの把握ができる利用者様にはオムツから布パンツでの支援を行っている。	排泄表を利用し排泄パターンを見極めることで、自立に向けた支援が行われている。 車いすの入居者にもトイレに座っていただくことで排泄リズムを再構築し自立の支援につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘の方には果物や牛乳の提供をしたりする工夫を行っている。便秘が慢性化している方にはかかりつけ医と相談して状態に応じた処方をしていただいている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	利用者様の体調や意思を大切に、入浴を楽しんでもらえるよう努めている。1対1で対応し羞恥心などを尊重している。	入居者の好みで時間帯を選んで入浴できる体制ができている。 無理に入浴する事はせず、入りたい時間帯に変更したり、後日にする等の配慮をしている。また、お風呂場には富士山等の絵を掲げ、入浴剤を使用したりと楽しめる入浴作りをに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	利用者様の意思にそって状況に 応じて安心して休息、睡眠をと っていただけるよう支援してい る。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目 的や副作用、用法や用量について 理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている。	利用者様個々の薬の内容を職員が 理解するよう徹底している。症 状や変化に気をつけるよう努め ている。服薬の際は、薬を飲み こめたかの確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	散歩、ドライブ、行事参加を行 い、花の水やり、食事の準備、 洗濯などできることを取りいれ 張りあいや楽しみのある日々 を過ごしていただけるよう支 援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる よう支援に努めている。また、 普段は行けないような場所でも 、本人の希望を把握し、家族 や地域の人々と協力しながら 出かけられるように支援してい る。	利用者様の希望にそって外出 や散歩などできるだけ外出でき るよう支援している。	気候を見ながら天候の良いとき には毎日どこかの時間で散歩に 行くようにしている。外出でき る行事を企画し初詣、花見、お 祭り等に外出できる機会を作 っている。また、お墓参りに行 きたいとの希望があったときは ご家族に協力してもらい出かけ た事例もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるよう に支援している。	利用者の状態に応じて、ご家 族と相談、理解していただき 上でお金を所持していただい ている。一緒に買物に出かけ 使える機会をもてるよう支 援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば電話や手紙のやり取りができるように支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者の懐かしい音楽を流したり、季節感を感じていただける装飾や花、観葉植物を置いて心安らかに生活していただけるよう工夫している。	玄関には入居者が作成した手作りの花などが飾られている。フロアには季節が感じられるような作品が多数展示してあり居心地良く過ごせる工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロアにソファを設置したり、テーブルをいくつか置いて利用者がその時々で自由に過ごしていただけるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族と相談し利用者が今まで使ってきた物を持ってきていただき、環境の変化が起こらないよう居心地のよい居室づくりに努めています。	備え付けのものはエアコン、ベッド、カーテンがある。各居室には壁に家族との写真や置物が飾ってあり楽しく落ち着く空間作りがなされている。入居者の中には家族様によりぬいぐるみ等の持参もあり寂しくないように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	個々の状態を把握しケアプランに取り入れながら「できること」や「わかること」を活かし、できるだけ自立した生活が送れるように安全を確保して支援している。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム光明早稲田

作成日 平成29年12月15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点，課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		運営推進会議にもっと家族の意見をもらう。参加していただく。	何回か家族会に参加していただくように努める。	家族会など行かないイベントも参加してもらい意見もいただく。	1年間の中で年2回
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には，自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は，行を追加すること。